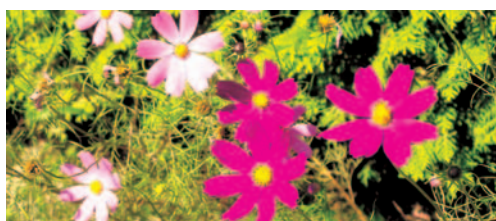


道内社会福祉協議会 イメージキャラクター



ふれあう社会

創立60周年記念特集号





六十年の歩み

社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会

会長 丹羽修身

滝川市社会福祉協議会は、社会福祉事業法（現在の社会福祉法）が制定された後の昭和26年7月に発足し、市内全世帯の皆様が会員として特別な理解と協力をいただきながら、市民と地域の福祉向上に傾注して60年の歴史を積み重ねて今日に至りました。

その間、幾多の世相の変遷を経ながらも社会福祉協議会本来の使命達成には行政機関のご指導は勿論のこと、各種組織団体やボランティアによる協力が支えとなって、市民はもとより地域福祉向上にご尽力をいただいていることに深く感謝とお礼を申し上げる次第です。

近年では、平成12年度から介護事業の一環として訪問介護事業を、平成15年度からは居宅介護支援事業を重要施策として取り組み、市民のニーズに呼応してまいりました。また、ボランティアセンターの再構築を行い、機能の充実に努めてまいりました。

さて、昨今は、成年後見制度や権利擁護など世相の仕組みも変わり、過去には身内同士のこととして済んでいたような内容も今日では他人様に委だねるケースも出てまいりました。本会としても避けて済ますことのできない課題として積極的に取り組んでまいる所存でございます。

こうした案件などを着実に推進するためには、これからも本会の事業推進に特別なるご理解とご協力を旧来にも増してお願ひ申し上げる次第です。

結びに、貴重な歴史の積み重ねに恥じることなく邁進することを念じつつ節目の言葉とします。



地域の絆、60周年の歩みを祝して

滝川市長 前田 康吉

滝川市社会福祉協議会が、ここに創立60周年という記念すべき年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げますとともに、歴代会長をはじめ役員、会員の皆様方が、社会福祉の向上のため長年にわたりご貢献いただきましたことに深甚なる敬意と感謝を表します。

滝川市社会福祉協議会は、戦後の混乱が終息へと向かい、社会福祉事業の再編が進められた昭和26年7月に、福祉活動への住民参加と共同募金運動を地域で支える民間組織の強化のため、民生委員や保護司の皆様を中心に、社会福祉事業団体の中核的な組織として設立されたのが始まりであると伺っております。以来、地域の福祉活動の担い手として、市民生活の安定と市勢発展のために多大なご貢献をいただきました。

現在、少子高齢化の急速な進展や措置制度から利用契約制度への移行など、社会福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。これに伴い、市民の福祉ニーズは多様化し、福祉サービスの提供主体も社会福祉法人や民間企業等、多様なものとなっています。このような中で、滝川市社会福祉協議会に期待される役割は益々広範囲となり、より良いサービスの提供はもちろんのこと、サービスの提供主体相互をつなぐ団体としての存在意義も高まっています。

滝川市は、少子・高齢化など急速に変化する社会環境のもと、「子育て・子育て・子育て」を充実し、安心して子どもを産み育てられるまち」「健康寿命を伸ばし、高齢者の知恵が生きる生涯現役社会と障がいのある人の社会参加」を目指して様々な施策を進めています。

今後とも、市民の皆様から信頼され、期待され、愛される「社協」を目指し、滝川市と滝川市社会福祉協議会が車の両輪として地域福祉の推進に努め、滝川市の福祉がより一層向上することを期待しています。

結びにあたり、滝川市社会福祉協議会の今後益々のご発展を心からご祈念申し上げ、創立60周年にあたってのお祝いの言葉といたします。





創立60周年を祝して

滝川市議会議長

水口 典一

社会福祉法人滝川市社会福祉協議会が、ここに創立60周年の記念すべき年を迎えられるにあたり、市議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

顧みますと、貴協議会は、社会福祉事業法の制定に伴い、昭和26年7月に民生委員や保護司の皆様を中心に、社会福祉事業を推進する中核団体として創立されたと伺っております。

終戦当時の極度な窮乏と混乱からようやく抜け出し、経済力も徐々に回復成長の過程に入ったこの時期、地域住民が健康で文化的な生活を営むことができるように、地域全体の社会福祉を増進し、明るく豊かなまちを建設する目的で設立されたところですが、この60年の道のりは決して平坦なものではなく、この間、会の運営にご尽力された歴代の役職員の皆様をはじめ、関係各位に深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

時に、3月11日、東日本を突然襲った地震と津波、死者、行方不明者合わせて2万人を超える未曾有の国難とも言える大災害、被災地に対する支援にあたっては、いち早く「市民の会」を立ち上げ、日赤、共同募金会とともに義援金の集約に奔走されたことについても、深く敬意を表する次第です。

現在、貴協議会におかれては、地域の福祉向上を目指した独自事業、受託事業などの法人運営事業やボランティア登録事業、さらには居宅介護支援、訪問介護事業など、住民福祉のパイオニアとして果たす役割は大きく、今後におけるさらなる発展と活躍が期待されるところであります。

近年、少子高齢化が顕著に進む中、こうした社会構造の変化に伴う社会福祉の需要も多様化し、貴協議会が展開する事業の重要性はますます高まっていると云えます。これまで培われた経験と実績を基に、社会福祉事業の充実向上のため、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協議会のますますのご発展と関係の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。お祝いのことばいたします。



祝 辞

滝川市共同募金委員会

会長 藤本 清正

滝川市社会福祉協議会が創立60周年の記念すべき年を迎られますこと心からお慶び申し上げます。歴代会長をはじめ役員職員の皆様方におかれましては永年にわたり地域の福祉活動の先覚者として福祉の向上に大きな役割を果たしてこられましたことに深甚なる敬意を表する次第であります。

戦後の混乱の続くなか昭和22年に国民たすけあい共同募金運動が全国的規模で展開され、全国で5億9200万円の募金が集まりました。当時の労働者の平均賃金が1950円、郵便はがきが50銭、豆腐が一丁一円の時代で一人平均の募金額が8円となり、まさに助け合う支えあう日本人の絆の深さがうかがえます。第一回の配分は、戦災孤児・外地からの引上者の援助や戦いで家を失った人々の福祉施設を重点的に支援されました。

昭和26年には地域福祉の推進を目的に、社会福祉協議会と共同募金が社会福祉事業法により法制化され、民生委員や保護司の方々を中心に滝川町社会福祉協議会が設立されました。爾来、滝川市社会福祉協議会は社会の多様な福祉ニーズに応えるため福祉事業・訪問介護事業・在宅福祉サービス事業等多くの事業を展開され、市民の誰もが安心して暮らせる地域づくり、福祉向上に大きな貢献を果たされておられますことに深く感謝申し上げます。滝川市においても近い将来3人に1人が高齢化を迎えることは確実であり、市民みなで支えあい、たすけあう福祉活動は地域コミュニティが薄れゆく昨今最も必要とされているところであります。

滝川市社会福祉協議会が益々ご発展され、地域の福祉活動の拠点となりますことをご祈念申し上げます。

滝川市社会福祉協議会60年の歩み

社会福祉協議会60年間の主な出来事

昭和26年度	・ 滝川町社会福祉協議会が設立される	昭和46年度	・ 滝川市社協、江部乙町社協合併準備委員会の設立
昭和27年度	・ 江部乙町社会福祉協議会が設立される		・ 滝川市社会福祉協議会と江部乙町社会福祉協議会が合併する
昭和30年度	・ 世帯更生資金貸付事業開始 ・ 滝川町において空知支庁管内社会福祉大会を開催		・ 高齢者等就職相談所の設置 ・ 社協ニュースの発行（年8回）
昭和37年度	・ 心配ごと相談所開設	昭和47年度	・ 第1回滝川市社会福祉大会を開催 ・ 福祉大学を開催 ・ 福祉の日設定（毎月1日）し、町内会一斉清掃、家族の話し合い、福祉貯金を推進
昭和38年度	・ 滝川市愛情銀行設置 ・ 環境衛生推進の功績により空知地区保健所会会長、北海道衛生部長から表彰される ・ 優良社協と認められ北海道社会福祉協議会会長、全国社会福祉協議会会長から表彰される	昭和48年度	・ 第1回金婚祝賀会の開催
昭和39年度	・ 住民主体の組織体系に改組 ・ 高齢者健康コンクールの実施 ・ 環境衛生活動の功績により空知地区保健所長会会長、北海道知事から表彰される ・ 町づくり活動優良地区と認められ北海道生活文化賞を受賞した	昭和51年度	・ 社会福祉法人の認可を受ける ・ 総合福祉センター開設に伴い、社協事務所を移転 ・ 法人化記念事業として福祉基金を設置 ・ ボランティアスクールを実施 ・ 敬老入浴事業の開始
昭和40年度	・ 環境衛生活動の功績により空知支庁長から表彰される ・ 環境衛生全国コンクールにおいて厚生大臣から表彰される ・ 環境衛生全国コンクールにおいて毎日新聞社から入賞全国一位の表彰を受ける	昭和52年度	・ 滝川市で北海道社会福祉大会を開催
昭和41年度	・ 地域モデル地区活動（防犯、青少年健全育成、環境浄化、保健衛生、幸せを高める運動）の推進	昭和53年度	・ 社協一般会費を改定した（100円から150円へ）
昭和42年度	・ 献血運動の功績により北海道知事より表彰を受ける ・ 献血事業推進の功績により北海道赤十字血液センター所長より表彰を受ける ・ 血液事業推進の功績により日本赤十字社、厚生大臣より表彰を受ける	昭和55年度	・ 総合福祉センター増築による事務局体制の強化
昭和44年度	・ 環境衛生保健衛生業務の功績により滝川保健所から表彰を受ける	昭和56年度	・ 道社協と共催で障害者雇用促進事業懇談会を開催
		昭和57年度	・ マイクロバスの運用事業を開始 ・ 優良社協と認められ北海道社会福祉協議会会長から表彰される
		昭和59年度	・ 地域福祉実践計画の策定（5カ年計画）
		昭和60年度	・ ふれあい広場事業の実施
		昭和61年度	・ 中空知ふれあいの集いを開催
		平成3年度	・ 滝川市で空知ボランティア研修会を開催
		平成5年度	・ 滝川市ボランティアセンターを開設 ・ ふれあい電話の実施

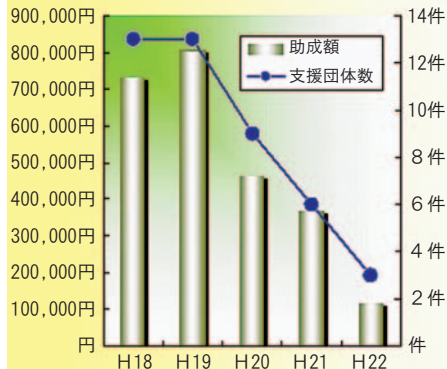
社会福祉協議会60年間の主な出来事

[illegible]

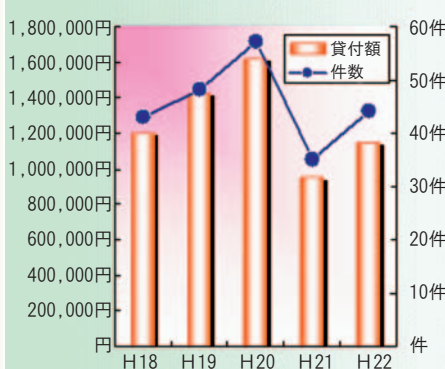
主要事業の実績 (過去5年間)

地域福祉事業

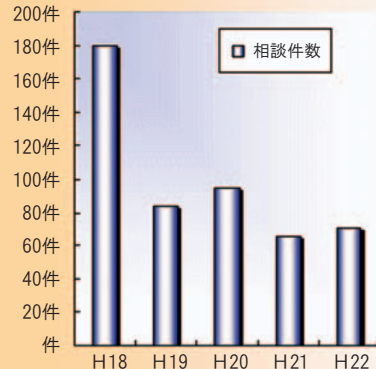
地域福祉活動推進支援
(新生サポート)



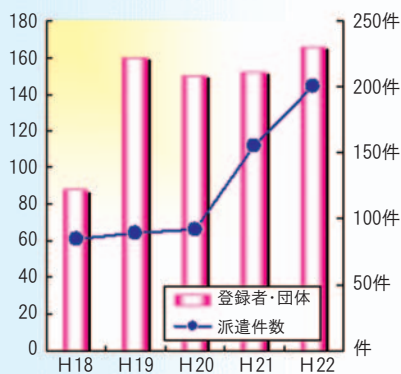
福祉資金の貸付



心配ごと相談



ボランティアセンターの運営

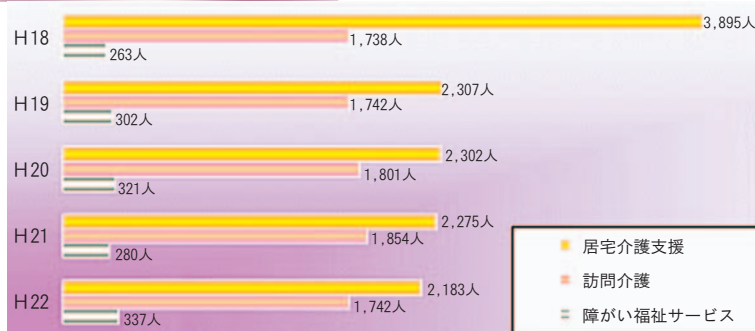


平成22年度の実績

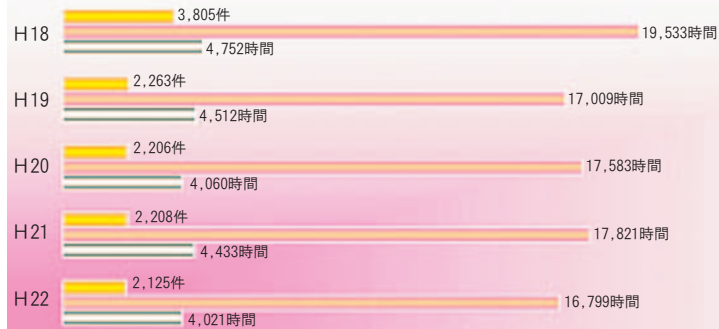
金婚祝賀会 該当96組 出席51組
救急医療情報キット配布 1,387世帯
歳末見舞金贈呈 122件 2,022,000円
ワークキャンプ開講 参加28名
ボランティアスクール 年3回開催
延参加135名

居宅介護事業

延べ利用者の人数



延べ訪問時間
(居宅介護支援は件数)

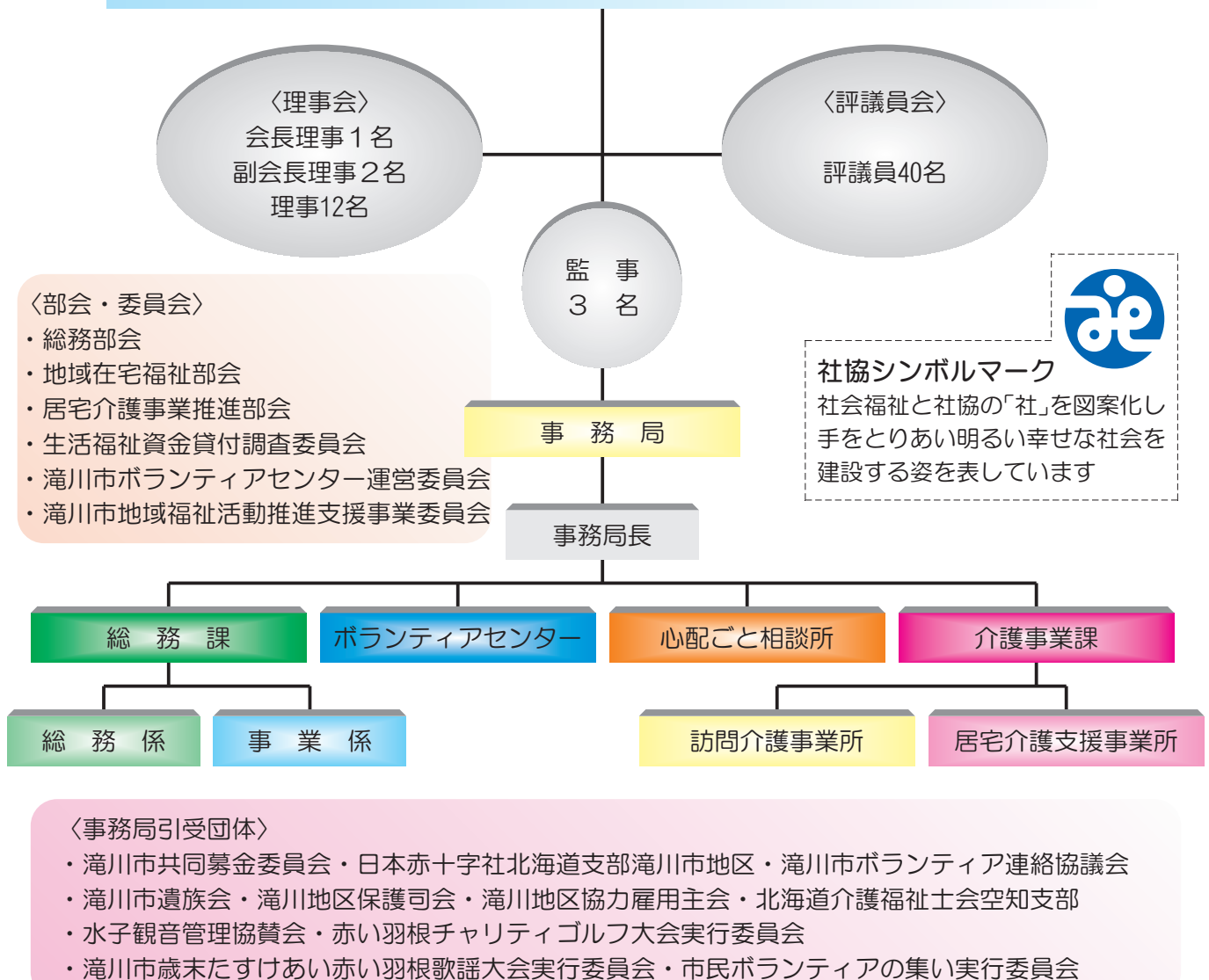


滝川市からの受託事業

	老人福祉住宅	重度身体障がい者ケアステーション	給食サービス		友愛訪問サービス		福祉除雪サービス		自立生活指導員派遣		介護予防支援	
			延世帯	延食数	延世帯	延本数	延世帯	延回数	延人数	延時間	延人数	延件数
H18	57世帯	6世帯	843世帯	18,650食	931世帯	22,082本	380世帯	11,155回	3人	7時間	242人	242件
H19	57世帯	6世帯	843世帯	16,719食	847世帯	20,094本	372世帯	9,605回	7人	19時間	56人	51件
H20	57世帯	6世帯	704世帯	14,294食	811世帯	19,019本	369世帯	11,695回	6人	16時間	218人	217件
H21	57世帯	6世帯	601世帯	11,726食	761世帯	18,010本	337世帯	10,495回	5人	21時間	171人	171件
H22	—	—	601世帯	11,148食	1,317世帯	29,988本	370世帯	7,539回	4人	13時間	198人	198件

組 織 機 構 図

滝 川 市 民（会 員）



役 員 ・ 評 議 員 名 簿（任期：平成22年6月4日～平成24年6月3日）

役 員

会 長	丹羽 修身	
副会長	赤川ひろ子	岩田 兼一
理 事	川原 弘嗣	椿坂 幸夫
	岸部三和子	黒井 巖
	米田 裕紀	齊藤 博朗
	佐京 信二	藤本 文子
	田端美智子	高橋 清美
	泉田 千一	橘 弘恭
監 事	坂本 和繁	下道 敏之
	林 弘	

評 議 員

長野 英己	森 憲明	佐々木善治	矢口 吉昭
東小野 忍	河内 政文	野澤 勇	小田嶋満男
業天 武彦	黒坂 松代	桑島 守	桑原 宏文
佐々木美津子	進藤 昭夫	佐武 敏夫	塩見 栄一
宮崎 徳寿	川村 克巳	長棟 信子	土田 里美
鈴木八重子	白水 範哲	野地 和英	西村 洋子
坂田 和友	川口 松男	南 博雅	田村 光子
中村 京子	田中勇喜男	清水登紀代	深村 完市
藤原 卿子	三好 薫	西岡 晃一	畑山 秀則
前田ひとみ	松平 忠也	三戸部 隆	國嶋 隆雄